

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
令和5年度第2回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第23条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員の任期は2年、委員数は13名で、うち1名は一般公募により選出されている。
会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

【参考】博物館法

第23条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和6年3月12日（火）14時00分～15時20分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

樋口正信委員（委員長）、生田目美紀委員（副委員長）、石田奈緒子委員、
海老原里美委員、江幡和代委員、坂本和弘委員、高尾戸美委員、
藤咲富士子委員、鷺田美加委員

※事務局出席者

横山一己館長、湯浅友明副館長、江原章子管理課長、岸川将史企画課長、
国府田誠一教育課長、池澤広美資料課長、小池涉首席学芸員、栗栖宣博主査、
井土ひろみ係長、田宮奈津美主任、仁平可那子主事

【文化課】

羽石真純主任

5 議事概要

(1) 館長挨拶：

- ・ 年度末のご多用の折、本日のご出席に感謝申し上げます。
- ・ 令和5年度は、10月下旬の脅迫文書による臨時休館、2月の電気工事による10日間の休館があった。いずれも、土日や三連休を含む休館となってしまったことは残念であったが、それ以外には大きな問題もなく、順調に運営できたと思っている。今年度は、現時点で入館者数が40万人を超えている。
- ・ 令和5年度の企画展では、地衣類展について集客面での懸念があったが、結果的には10万人以上のお客様にご覧いただくことができた。植物分野は他分野に比べ集客に苦慮する面があるが、地衣類という身近な自然に目を向ける機会となり、ご好評いただけたと考えている。
- ・ 令和6年度は、開館30周年を迎える。その記念となる30周年企画展をいつもより大がかりに、6～7ヶ月間の長期で開催する予定である。会期中に展示替えも計画している。
- ・ また、令和6年4月からは、寄付金募集を開始する。主に青少年のためになるような事業などに活用していきたい。
- ・ この2月に秋葉原駅TXプラザでのミニ移動博を行ったところ。次年度も引き続き都内でのPRを行い、当館の広報を行っていきたい。
- ・ 博物館協議会は博物館運営にとって重要な組織である。この会議では委員の皆様から様々なご意見をいただき、今後の運営に活かしていきたい。今後ともご協力を賜りたい。

(2) 会議の成立について

本日の協議会は委員13名中9名の参加があり、会議は有効に成立する。

(3) 議案説明（事務局）

○議題

- ① 令和5年度後期事業の報告について
- ② 令和6年度事業計画について
- ③ 予算・決算などについて
- ④ その他

(4) 質疑・意見交換

○OA委員

- ・ TXプラザの広報ブースを活用してのミニ移動博では、様々な客層の方にお越しいただけたのではないかと思います。ぜひ継続的に実施してもらいたい。博物館グッズの物販も併せて行くと、よりお客様に喜んでいただけるのではないかと。
- ・ 賛助会員制度についてぜひ積極的に取り組んでいただきたい。会員になるメリッ

トを具体的にイメージできるように準備して依頼に行くと良いと思う。

○事務局

- ・ 寄付依頼先の見通しはある程度たっているところ。管理部門の業務負荷とのバランスから、できるだけまとまった寄付金を、継続的に支援してくださるところから集めたいと考えている。

○OB 委員

- ・ 所属小学校では、毎年4年生を遠足で連れてきている。今年は、10月のまさに臨時休館の日に遠足を予定していた。急遽の延期は残念であったが、代替の日の調整など、館の職員の方には大変親切にご対応いただけてありがたかった。
- ・ 遠足では、地衣類展を子どもたちと楽しんで見ることができた。小4くらいだと展示パネルもしっかり読むことができる。遠足後、学校の校庭などで地衣類を見つけては「ここにもあるよ！」などと、子ども同士で新しい気づきを得ていた。
- ・ また、子どもたちにはチラシなどの紙媒体がまだまだ身近である。チラシに載っている写真にはインパクトがあり、子どもたちを惹きつける。デジタルコンテンツが広がっているが、学校ではまだ可能な限り紙媒体での配布や掲示を続けたい。

○事務局

- ・ 広報媒体について、デジタルや SNS の親和性が高い世代向けに、順次取り入れているが、子どもたちから家庭への波及を考えると学校での紙媒体配布は効果が高いと考えている。当面は、デジタルと紙媒体の併用でやっていきたい。

○OC 委員

- ・ 小さい子どもたちの情報収集は、視覚からの情報が8割と言われている。掲示されているポスターを見て、子どもたちが自然に関心をもち、そこから一緒に図鑑を広げるなど、興味が広がっていくことも多い。引き続き紙媒体での広報は続けてほしい。

○OD 委員

- ・ 今年度はうんち展、地衣類展ともに拝見したがとても良かった。地衣類は、目立たず一見地味な存在であるけれど、身近な、足下の自然に注目する機会を提供いただいたと思う。展示でも、地衣類の成分が含まれたのど飴など、生活とのつながりも紹介されていたことで、さらに身近に感じられた。
- ・ 夏休みに開催されている、「自由研究のヒントをみつけよう」講座は良い取組。自由研究のノウハウ本などは色々あるが、実際に学芸員の話聞ける体験は子どもに心に残る。さらに欲を言えば、講座参加者が後日気軽に相談できたり、自由研究の内容やまとめを館内掲示などで紹介できたりすると、なお良いと思う。
- ・ コロナ禍を経て、イベントなどでもオンライン対応が普及した。さらに、リアルとの併用・いわゆるハイブリッド対応も行っておられると思うが、それぞれにコ

コンテンツの準備が必要になるなど、館職員の負担が増大することが心配である。実施にあたっては、現場の負担も踏まえて事前によくすりあわせてもらいたい。

○E 委員

- ・ 移動博物館事業の運営のなかで、37本の解説動画を公開したとあるが、これまでの利用数の実績が分かれば教えてほしい。

○事務局

- ・ 動画は Youtube で公開している。特定の場所に掲示した QR コードを読み込む形で視聴する、限定公開の形式としている。実績は、各動画の再生数から確認できると考えているが、まだカウントしていない。今後、分析していきたい。

○E 委員

- ・ デジタルワークシート、自然発見ノートの作成状況について、教えて欲しい。

○事務局

- ・ モバイル版自然発見ノート作成については、鋭意検討中である。当初は、業者に新しいフォーマットを作成してもらうことを考えていたが、検討する中で、Google フォームを活用し自分たちで作成できるのではないかという案も出ている。いずれにしても、もう少しじっくり検討して準備を進める必要があるので、当初2ヶ年計画の事業であったが、延長して4ヶ年計画に変更した。

○E 委員

- ・ Google フォームは写真や動画を手軽に掲載でき、また、正解不正解などのチェック機能も有しているので、かなり活用可能性が高いと思う。進捗状況について、また教えていただきたい。
- ・ 関わっている、岡山のカルチャーゾーンミュージアムガイドの紹介をさせていただきたい。このリーフレットは特に発達障害の子向けに作られた。各ミュージアムの情報は、それぞれの web サイトに詳細が載っているが、発達障害のある子にとっては館へのアクセス、入館の仕方など1つ1つの手順がwebだとわかりにくいことがある。このガイドがそれらのわかりにくさの解消の手助けになればと作成した。茨城県自然博物館でも参考になればと思い、紹介した。
- ・ 30周年企画展の開催を楽しみにしている。ある博物館の周年記念展では、過去の博物館広報誌の表紙をずらっと並べて展示していた。それを見て、「この企画展はとても面白かった」「ここからここまで、子どもを連れて毎回見に来た」など、博物館にまつわる記憶とともに会話が生まれる様子がみられた。過去の人気プログラムの紹介など、これまでの企画展を振り返れるような仕掛けがあると、お客様に親しみを持って見ていただけたらと思う。

○事務局

- ・ まさに委員のご提案のように、お客様に楽しんでもらえるような、また、博物館をもっと身近に感じてもらうような企画展としていきたいと計画している。

○F 委員

- ・ 毎回、企画展の中の工夫や仕掛けが素晴らしい。恐竜 vs 哺乳類展の最後のコーナーに化石タッチ証明書が置いてあり良い仕掛けだと思った。このようなものは子どもたちが楽しめ、記念になる。証明書の紙がカラーだとなお良かった。
- ・ 移動博物館事業は遠方の学校の児童生徒だけでなく保護者、地域の大人にとっても嬉しい取組である。できれば、実施回数をもっと増やしていただけると本当にありがたい。
- ・ ラーケーションが茨城県でも導入されると聞いた。平日の博物館・美術館を親子でゆっくり楽しめるのがメリットだと思う。館の受け入れ体制などはどうか？

○事務局

- ・ 平日も積極的に受け入れたい。ラーケーションが平日の賑わいにつながることを期待している。

○OG 委員

- ・ 地衣類展は素晴らしかった。公園や道ばたなど、普段目にしているけれどあまり認識していない、身近な自然に改めて目を向ける機会になった。
- ・ 恐竜 vs 哺乳類展では、QR コードを読み込むと 360° カメラで骨格標本を見ることができると、新しい試みが面白い。QR コードからの情報収集は若年層に非常になじみがある。そのほかにも、研究者の顔写真付きの展示パネルなどは、企画展が人の手によって作られているものだというところを、子どもたちにロマンと親近感を持って見てもらえるように工夫された展示になっていると思う。
- ・ 来年は 30 周年企画展を控え、新規客の開拓が課題になってくると思う。何か手立てはあるか。

○事務局

- ・ 当館は子連れファミリーのリピーター客が多く、10 代後半～30 代前半の客層が比較的少ない。今後はその層へどうアプローチするか、考えていきたい。例えば、TX 車内での動画放映の機会について話をいただいているところであり、前向きに検討していきたい。車内広告や動画は、様々な客層に PR する有効な手段になると考えている。

○OG 委員

- ・ 寄付制度については、決済システムをいかに簡易にするかが大切だと思う。また、既存のクラウドファンディングシステムを使うと手数料もかかるため、自機関で決済システムを設けて寄付を募った事例を知っている。

○事務局

- ・ ご指摘のとおり、特に個人の方に対しては、わかりやすい決済手続きの提示が重要だと認識している。県に「いばらき電子申請システム」というシステムがあり、決済手続きにも利用できる。自宅のパソコンやスマートフォンから、このシステ

ムを經由してクレジットカードによる支払いが可能である。

OH 委員

- ・ TX プラザでのミニ移動博物館を拝見した。短時間の滞在だったが、お客様がひっきりなしに来ており、楽しんで展示を見ている様子が印象的だった。
- ・ 地に足のついた戦略、運営をされ、様々な事業を着実に進めておられると思う。
- ・ 教育用教材や展示解説など、様々なコンテンツでアナログからデジタルへの切り替わりが求められていると思う。学芸員のみなさんが、日々の業務に加え、調査・研究活動、さらに企画展の準備をしながら、それらのコンテンツ更新の対応をしているかと思うと、現実的に業務が回せているのかが心配である。何か工夫されていることなどあればお聞きしたい。

○事務局

- ・ 再任用職員を 15 名配置し、業務平準化を図る工夫をしているので、昔より学芸系職員の業務負荷は少なくなったと思う。

OH 委員

- ・ 移動博物館事業の中で、解説動画の話があった。Youtube の動画には字幕を付けられる機能があるので、ぜひ付けて欲しい。
- ・ 恐竜 vs 哺乳類展を拝見した。科学・技術・アートの領域がセットになった素晴らしい展示だと感じた。科学教育の時流をキャッチした展示構成であり、企画展メンバーの皆様が非常に勉強熱心であることがうかがえた。
- ・ 30 周年展においては、「博物館は面白い」を打ち出した館内ツアーなど計画されてはどうか。それも、博物館へのこれまでの関わり度合いなどから「初心者向け」「中級者向け」「上級者向け」などのコースに分けて開催されると面白いと思う。ツアーは、学芸員とお客様との距離を縮められ、博物館を身近に感じてもらえる素晴らしいコミュニケーションの機会であると思う。

○I 委員

- ・ ラーケーション制度について。共働きの子育て世帯が多い時代であり、特に土日勤務がある職種の親御さんは学校の休みの日に子どもと一緒に出かけることが難しい。ラーケーションは、そういったご家庭の児童生徒も、家族一緒にミュージアムを楽しむことができ、有意義な体験になるだろう。
- ・ 一方、受け入れる館にとってはその対応が必要になる。多様なお客様を受け入れるということは、その分コンテンツやニーズの多様化が求められる。対応を考える際には、相手とのコミュニケーションが大事になる。徐々に進化、常にアップデートしていくというようなイメージであろう。

以上